

会 議 録

1 会議名

平成26年度第11回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・直江津学びの交流館の利用状況について（公開）
- ・新水族博物館の検討状況について（公開）

【協議事項】

- ・平成27年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成27年2月18日（木）午後5時00分から午後7時24分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 和室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造、池田伸吾、泉 秀夫、伊藤邦雄、今井不二子、小林克美、佐藤光司、竹内明美、田村利男、田村雅春、冨塚 毅、中澤武志、福島 弘、増田和昭、町屋隆之、丸山朝安（欠席1名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：関川センター長、荒木係長、星野主任
直江津学びの交流館：笠原館長、平田副館長
企画政策部：川上部長
新水族博物館整備室：坂井室長、山岸参事

8 発言の内容

【関川センター長】

只今から平成26年度第11回直江津区地域協議会を開会します。本日の出席人員は、16名です。上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席がありますので、会議が成立していることを報告します。はじめに増田

会長から御挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

【増田会長】

本日はお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。今日の議題は【報告事項】「直江津学びの交流館の利用状況について」と「新水族博物館の検討状況について」の2件を予定しております。

今日は和室の部屋になりまして、足の悪い方には申し訳ないのですが、部屋の都合でここになりました。椅子に腰かけるのと座るのとでは、だいぶ雰囲気が違うなと感じております。

新水族博物館につきましては、所管事務調査で議会に報告したということで、本日は同じもので御報告してもらおうことになりました。よろしくお願いします。

【関川センター長】

ありがとうございました。

それでは同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることとなります。増田会長お願いします。

【増田会長】

それでは、次第に沿って進めさせていただきますが、どうぞ皆さん、説明する方も膝を崩してください。私も崩させていただきます。

本日の会議終了予定時刻は報告が2つありますので1時間45分くらいを目途にしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。それから、会議録の確認ですが、名簿順で池田委員と丸山委員をお願いします。

さっそく議題に入ります。最初に「直江津学びの交流館の利用状況について」説明をお願いします。

【直江津学びの交流館：笠原館長】

直江津学びの交流館、館長の笠原でございます。今日は副館長の平田とお邪魔をいたしました。よろしくお願いします。

私どもの資料は、資料No.3ということで事前に配付させていただいております。この資料に基づいて説明させていただきます。

－ 資料No.3 直江津学びの交流館の利用状況について説明 －

【増田会長】

ありがとうございました。それでは、只今の報告につきまして、御意見、御質問等あ

りましたら承ります。

【今井委員】

駐車場に入った時に満車で、その後ろから続いて車が入ってくるので、外に出られませんという話をしたかと思うのです。今の説明を聞いていると、「駅のほうへも出られる」、「西本町のほうへも出られる」ということですが、第一に駐車場から出られるようになっていますか。要するに、先ほどの説明で「西本町にも出られる」という話をしていましたよね。イカヤとの間の狭い道だと思うのですが。

（「違う」という声あり）

違うのですか。最近の話なのですが、私が聞いた話では、入ってしまうと出られないのです。次から次へと車が来ているから。「満車だから出なさい」と言われても、とにかく出られないのです。道路に並んでいる車が何とかならない限りは塞がってしまうから出られなくて非常に困ったそうです。駐車場の整理員は2人いますから、そのうちの1人は駐車場の入口で事前に「満車ですから、駐車場に入れません」と言えないものですか。

【直江津学びの交流館：笠原館長】

道路上に車がつながった場合ですか。

【今井委員】

はい。とりあえず駐車場に入りますよね。ですが、満車なら入る前に道路の所で「駄目だよ」と言えば向こうのほうに回れると思うのですが、それがなくて駐車場の敷地に入ってから「駄目ですよ」と言われても困ります。

【田村雅春委員】

私が経験したのは、例えば、「少し待っていれば空く」と言われて道路で待っている車もいる。駐車場の整理員の人は「何時ころお帰りですか」とすぐ聞いてくる人もいます。そうすると「2、3分待っていれば戻ってくるので少し待っていてください」と言われて道路で待たされる場合もあります。それで「あの車がすぐ出るから駐車場の中に入って待っていてもいい」と言われる時もある。「2台まではいい」と言われて1台は止まっていて、あとの車は通すという人もいる。いろいろな例があります。

【今井委員】

それは非常に親切なやり方だと思うのですが、私がもらった苦情は「駐車場に入るには入ったけど、出られない」という苦情だったので、警備員2人で固まっていなくて、1人は「混むな」と判断した時点で道路へ行き、「こっちへ行ってください」と誘導され

たほうがいいような気がします。

【町屋委員】

資料の苦情の中にも『『そこは出口だよ』と言われた』と書いてありました。図書館の駐車場は入口と出口があって、構内も一方通行状態で使っている状態です。なので、出られないということはないと思うのですよ。

駅方面から来た時は、奥のほうから入って手前から出てくるのですよね。そこから、さっき言ったように、「西本町側から出てください」と言うと目の前には車の行列があるかもしれないけど、そこから左に出てくる分にはあとは運転技術の問題ではないかなと思います。普通に中に入って、ぐるっと1周して手前側から出てこられるので、そこから左折して出てもらう分には大丈夫だと思います。ただ、そこまで入る前に分かっていたら直進して安国寺側に抜けることも出来ますよということだけだと思います。

【今井委員】

ちょっと待ってください。困った人の話を聞くと、要するに、入口と出口と2つありますよね。それで出口のほうから出ようとする、図書館は大きい道路から少し入りますよね。入ってくると、図書館が満車でも出られる状態で車が流れていけばいいのですが、その流れが滞っていると出るに出られないという場面があるのですよ。

【増田会長】

今井委員が言いたいことは、入る車が道路に並んでいると、それが邪魔をして出口から左折しようと思っても左折できない。とおっしゃりたいのですよ。

【直江津学びの交流館：笠原館長】

道路ではないのですね。おっしゃっているのは、駐車場に入ったら車が詰まっていたと。待っている車が1台、2台いて、その後ろについたということですよ。

(違いますと声あり)

【小林委員】

ずっと出口から繋がってしまって、出口から出ようとしても目の前に大きな車があって、右折も左折も出来ないということです。

【町屋委員】

でも、そこまで並ばないと思います。施設に改善を求めるのは行き過ぎだと思います。

【田村雅春委員】

そこまで並んでいるところを見たことがありません。

【増田会長】

皆さん、いろいろと解説をしていただいております。

【田村雅春委員】

せいぜい3台くらいしか並ばないと思います。

【今井委員】

スムーズに行く場合もあるかもしれませんが、これは実際に困った人の声ですから。

【増田会長】

問題を整理しますと、入る車が道路の真ん中に止まると、なかなか出口から左折して出られないというのが1つあるということと、もう1つは、大きい道路から少し入ったところに駐車場がありますが、そこからずっと並んでいるのが分かったらその時点で満車ですから2人のうち1人は道路へ出て行って誘導をしてくださいということ。まとめるとその2つの意見になります。何か回答をお願いします。

【直江津学びの交流館：笠原館長】

道路に並べて待たせるのは基本的には駄目ということでお話ししております。それで、駐車場に入ってから並ぶ場合もありますけど、その場合も誘導員が、後ろの車が出たいと言えば、脇を誘導して出口に出ていただくということをしていきますし、道路上も、雪が降ると難しいですが、すれ違い出来ますから、仮に片側に止まっていたとしてもその脇を抜けて向こうへ行くことは可能だということだと思っております。ですから、具体的にいろいろなケースがあるのですが、一応シルバー人材センターに「慎重な駐車場整理をしてください」と伝えたいと思いますし、満車の場合も、私が見ている限りでは、整理員は一生懸命動いてお知らせしているはずなのです。ただ、人によっては必ずしもそうではない方もいるかもしれませんので、もう1度徹底をさせたいと思っています。よろしくをお願いします。

【竹内副会長】

先ほど今井委員もおっしゃっていましたが、整理員さん2人で同じ仕事をしているのです。用があって図書館の前の道路を歩いていたのですが、非常に危険なのです。整理員さんもどこか空いている場所を探すので一生懸命なのか、曲がろうとする車と歩行者がぶつかりそうになっても、駐車場内ではなく、道路なので整理員さんに責任はないのですが、車が並びだすと今の状況ではとても危険なのです。そういうところも少し気配りしていただけると助かるかなと思いました。整理員さんが入れる時に「止まってくだ

さい」とか「行ってもいいですよ」、「渡ってもいいですよ」とか言っていただけると行けるのですが、ずっと立って待っていたのですが、整理員さんが運転手さんに「入ってください」と言っているのですが、運転手さんが「入れません」と言ったやりとりをしていて、私たちもずっと止まって待っていたのですが、歩いている人たちに「すみません」と一言くらい挨拶する気配りがあると、もっと苦情が減るのかなと思います。もし入口で、中に入る車と歩行者に怪我があると大変なことになるとと思います。整理員さんが2人いても同じ仕事をしているのではなく、1人が中にいてどこが空いているか確認するというくらいの対応がいいと思います。先週の土曜日に私自身も危険な目に遭ってしまったので、もし、何かあれば困るので考慮していただきたいと思います。

【泉委員】

笠原館長にお聞きしたいのですが、駐車場にいる方って「警備員」なのですか。それとも「交通誘導員」なのですか。それが1つです。それから、もう1つは、駐車場の中の警備員であれば、駐車場の中での事故については彼らに責任がありますけども、今言われたような公道上で事故が遭った場合に、そういう資格がないと出来ませんし、責任も彼らのところに行きますので。最近、私も図書館を使いますが、「満車」という大きな字で書いてありますよ。それから、入る時にもすでに分かりますよ。そこは今度、我々だってそれなりの事情と言いますか、少し気を利かせれば、というよりも普通です。普通の気の使い方でも通れます。それからもう1つ。先ほども出ましたが、駐車場の中から車が出ないことには中に入れませんが、出口を優先にしてもらわないと困るのです。普通の交通ルールに従って車が動いていけば出られないということは、余程、雪の状態等で道路状況が悪い以外はそんなことは経験したことがないです。

最初の2点について回答をお願いします。

【直江津学びの交流館：笠原館長】

2人体制は、土曜日、日曜日、祝日だけで、平日は1人です。それから、彼らの仕事は交通誘導ではなく、駐車場の整理員ですので、誘導の資格はございません。「あの場所が空いている」とは言えるのですが、「バックオーバーレイ」という誘導は出来ません。では何をやっているのかという話になるのですが、満車の時に第2駐車場や南口駐車場に御案内する紙を常時持っており、それで御案内させていただくということと、道路上に駐車が多くなってしまい、当館のために道路状況に迷惑をかける場合、「満車だからあちらの駐車場へ行ってください」と言ったりします。それから、ハイマートさんの駐車場に

私どもの利用者の方々がお止めになります。私も実際に何人かにお話しをして出て行っていただいたりしております。どうしても止めたいという方は空いているところに止めたいという方もいますので、そういう見張りもしていただいております。なかなか誘導するというのが出来ないものですから限界があるということで、その分委託料を安くしている部分もあります。

【増田会長】

他の皆さんはいかがですか。

【小林委員】

2点だけお願いします。利用状況について、状況も違うから一概に言えないでしょうけど、高田図書館の利用状況と比較してどうなのでしょう。分かればお願いします。

【直江津学びの交流館：笠原館長】

今回、数字を持ってきていませんが、先々回あたりにお話をさせていただいて、大体、学びの交流館と同じくらいの来館者数でございます。高田図書館は入口にセンサーが付いていてチェックしていますが、ほぼ同じくらいです。

【小林委員】

図書館の利用者だけですか。

【直江津学びの交流館：笠原館長】

当館の図書館利用者は少ないです。図書館だけの来館者数を比べると高田図書館のほうが多いです。

【小林委員】

分かりました。それからもう1点。駐車場をいろいろと探しているとおっしゃいましたが、イカヤの第2駐車場がありますよね。その場所は昼間ほとんど空車みただけで、その場所は借りられないのですか。

【直江津学びの交流館：笠原館長】

一時的と言いますか、緊急的にお願いするのはおそらく駄目とは言わないかもしれませんが。今も施設前の駐車場をかなりお借りしていますし、イカヤさんの場合は、昼間は割と空車になっています。イカヤさん自体も絶対数不足しているとおっしゃっているのですが、昼間だけなら可能かもしれませんので検討してみます。

【小林委員】

それから、私の家の右前の空地も何も止まっていないのです。誰の持ち物か分かりま

せんが、あそこも10台くらい止められるかと思います。隣が空き家なので更地にしてもらえば結構大きなスペースになると思います。要望です。

【泉委員】

少し聞かせてほしいのですが、図書館の利用状況についてはセンサーということで人的なものが掛からないということなのですが、駐車場の利用状況についてはおそらく、人間がカウントしているのだらうと思います。この資料は随分と丁寧な調査結果です。このデータというのとはどのような使い方をされているのでしょうか。我々に説明するために作られているのか、あるいは、このデータそのものが何らかの形で行政に反映されて利用されているのでしょうか。教えていただけますか。

【直江津学びの交流館：笠原館長】

この資料は地域協議会用に作った表でございます。今、駐車場の検討をいろいろとしておりますので、そこで日の目を見る可能性がございますけど、満車だからイコール必要という判断がされるかどうかは別の問題です。ただ、私どもとしては苦情もいただいておりますし、課題であることは間違いありません。今後どういう使い方をしていくかは未定です。以前に、例えば1日何台来ているかという調査をカウンターで計りました。そうすると3分に1台入れ替わるというのが分かりまして、それで、シルバー人材センターさんも「待ってもらえれば直ぐに空きますから」と言うことがありました。ただ、サークル関係の方が大勢止めたりした場合は、回転が鈍くなるということもありまして、私どももそれぞれの団体には「第2駐車場へ行ってください」とお願いするのですが、交流館から450mくらいございます。苦情の中に「600m」とありましたが、600mはなくて、メジャーで計ったところ、第2駐車場の真ん中まで440mでした。一般的に駐車場は200m以上離れると歩くのが少し億劫になると言われております。都会なら、500mくらい歩いてもそんなに苦にはならないでしょうけど、上越の場合は少し難しいのかなと思っています。

【増田会長】

他にいかがですか。

(意見なし)

それでは、概ね出尽くしたと思いますので終了したいと思いますけど、私からお願いを申し上げます。苦情の一覧表をいただきました。非常によく記録されているのですが、やはり、駐車場関係の苦情が多いということで、委託者側とは、毎月、情報交換行って

いるとお伺いしましたが、非常に微妙な問題ですので、こういう苦情がないように細心の注意を払っていただければと思います。極端なことを言いますと、さっき、「同じ人から3回苦情をもらった」と言っていました。これは、シルバー人材センターに言って人を変えてくださいということも出来ると思いますので、そういうふうなことをやっていただかないとせっかく皆さんが努力しているのにも関わらず、入口で交流館の印象を悪くしているということは非常に残念なことだと思いますので、この辺のことはぜひとも、今後、もう少し力を入れていただきたいと思います。

それから、先ほど、「周辺の駐車場、空地も含めて全部調べました」ということもございますので、抜本的に何らかの対処をお考えだろうと思いますので、ぜひとも改善に向けて御努力をお願いしたいと思います。以上です。大変、ありがとうございました。

－ 直江津学びの交流館 退室 －

【田村利男委員】

学びの交流館の中にある図書館は最近非常に、「この本を探してください」と言うときに探してくれてかなり良くなりました。ですから、今まで私が行って、探すのに3・4時間掛かったものが1時間で終わるということもありました。

【増田会長】

中のサービスは非常に良いということですね。

(良くなった、努力しているという声あり)

それでは、次の議題に行きます。「新水族博物館の検討状況について」御報告をお願いします。

【企画政策部：川上部長】

お疲れさまです。上越市企画政策部長の川上です。いつも皆さんに大変お世話になっており、ありがとうございます。今日は「新水族博物館の検討状況」ということでお時間をいただき、ありがとうございます。さっそく説明させていただきますので、よろしくをお願いします。

それでは、皆様に資料No.4「新水族博物館の検討状況」を配付させていただきましたが、これに基づきまして説明させていただきます。実は今日、市議会の総務常任委員会の所管事務調査ということで、同じ資料で議員の皆様にも御説明させていただきました。概算事業費が高額になっておりますが、この辺のところも説明いたしました。新水族博物館につきましては御案内のとおり、昨年1月に策定した基本計画に基づき、これま

での間、当市の新たなまちづくりの核となる施設を目指しまして、市と設計者と指定管理者の3者で、それぞれの知見、経験を生かしながら、いろいろな角度から協議を重ね、基本設計業務を進めてまいりました。当初の完了予定よりも若干遅れておりますが、平面計画の概要がまとまりましたので、説明させていただきます。

－ 資料No.4 新水族博物館の検討状況について」に基づき説明 －

【増田会長】

ありがとうございました。それでは、只今の説明に関しまして、御意見、御質問等ありましたらお受けします。どうぞ。

【田村雅春委員】

最初にお聞きしたいのですが、確か、平成25年頃の計画の段階で「将来的には新水族博物館を造ることに賛成だが、どのくらい予算オーバーしたら一度立ち止まって考えるか」という話をした記憶があります。あとで議事録を見てもらえれば分かりますが、行政の考えとしては、確かにそういう御意見もあるし、いろいろなことも当然生じてくるだろうけど、東北の大震災があった後で建設費の増額という議論がある中で、いろいろと工夫しながら予算が膨らまないような努力をしていくというような話をされました。

今回、私の想像を遥かに超えた金額が出てきたのですが、その時に出た話は、規模を多少小さくしても建設費を守るべきではないかという話をした記憶があります。もう1つは、先の協議会で報告のあった市の第5次行政改革大綱の中でも触れています「財政の健全化」です。言葉で言えば立派な言葉です。実態はいろいろな施設使用料を値上げして、平均すると1.5倍です。私は、新水族博物館を造ることに対しては全く問題がないと思っていますし、まちづくりにとって街中を回遊する基点となる施設になるし、もう1つは厚生産業会館と違って収入が非常に増えるのではないかと思ったからあえて反対しなかったのですが、財政が非常に厳しい中で、本当に市民から理解を得られるのかどうか少し疑問に思うのと、これだけ事業費が上がってくると入館料がどれくらいになるのか。これについては全然説明されていません。当初の予想より120%か130%くらい高く取るのかという部分もあるし、今後の償還計画はどのようにするのか。その辺が少しも分かりません。今の4つの点についてお答えいただければと思います。

【企画政策部：川上部長】

御心配な点、御意見、御質問いただきありがとうございます。私どもも、高額になっているということで、これをきちんと受け止めていかなければいけないと思っております。

す。過去にそういう意見も頂戴したということですが、現在、私どもで考えておりますのは、基本計画において、延床面積8,500㎡、水量3,000tという施設規模で、イルカの通年飼育もやっという計画を立てました。その時の私どもの答弁がどうなっていたのかという部分もございますが、今、現時点で、私どもといたしましては、皆さんと一緒に造るからには、将来に向けて価値のある施設にしていきたいと思っております。小さくてもいいのかもしれませんが、私どもの考えとすれば、基本計画に沿って整備をしていきたいと思っております。そして、この113億円という概算事業費を当市にとって価値のある投資にしていかなければならないと思っております。いずれにいたしましても、整備を進めるべきと考えております。それから、財政状況が厳しい中で市民の理解が得られるかという御指摘でございます。おっしゃられるとおり、今、公共施設の使用料も平均1.5倍くらい値上げするという計画で協議をしております。行政全体の財政健全化ということで、行政改革に取り組んでいるところでございます。無駄なものはきちんと効率的にしていかなければいけないと思っております。今の施設使用料が1.5倍に上がるというお話ですが、これは、施設の利用者から応分の負担をしていただかなければならないということでございます。決してお金がないから上げるということだけではないということもまた御理解をいただきたいと思っております。いろいろな施設の使用料が適正なのかという部分もございますので、そうした全体の行政の在り方について改革を進め、見直しを進める中でのことと御理解をいただきたいと思っております。そして、不要なものはきちんと整理し、一方では、将来に向けて必要な施設、価値ある投資については積極的に進めていかなければならないと思っております。それから、償還計画等につきましては、財政計画を作る中で、23年間に渡って償還をしていかなければならない、こうしたものも上越市全体の財政計画の中に入れ込んで検討しながら整理をしております。そちらは24日に議会で示し、公表出来る状況になっております。その中に建設費も入れ込みまして、厳しい財政ではございますが、やりくりの中で整備するものはしていきたいと思っております。それから施設の運営ですが、基本計画にもありますように、一定の料金をいただきながら施設運営費に充てていくことで、市からの持ち出しは基本的にはないという形になっております。現在、水族博物館を運営していくと毎年2億5,000万円くらいの経費が掛かっています。収入はその半分くらいで、市の持出しは1億2,000万円くらいになっております。ただ、新しい施設になって一定の利用者が入る計画になっておりますので、毎年、維持管理経費

として1億数千万円を負担していたものが、今後は、委託料等は基本的にはないということです。なおかつ、5年で3億円の再投資に向けた納付金を指定管理者から市へ入れていただいて、市が整備していきます。大規模な修繕は公費で行わなければいけないということで別途予算が必要となってきますが、基本計画の骨格のところは変わりません。当初の費用が71億円だったのが、113億円になったということで、41億9,000万円くらいが増額になりました。先ほど、もう少し丁寧な説明が必要だと御指摘もいただいております。今、基本設計をやっておりますので、その中でもう少し資料をきちんと整理させていただいて、市民の皆様からも御理解いただけるよう説明会等もやっていきたいと思っております。分かりづらい部分もあったかと思いますが、いろいろな設計を進めていく中でどうしても当初予定していなかった経費が出てきたのも事実ですので、その辺は丁寧に説明していきたいと思っております。

【増田会長】

ありがとうございました。少し確認ですが、3月中旬に基本設計が出来上がるというお話でしたが、その時点かその前に基本設計書で私どもに設計者から説明していただけることは出来るのでしょうか。基本設計というのは概要版ですので分かりにくい点もたくさんあるのです。そこまで話をしているとあと2時間くらい掛かってしまうので、そのところは地域協議会としてもしっかりと見させていただく必要があると思っておりますのでお尋ねした次第です。

【企画政策部：川上部長】

3月中旬ころに基本設計が出来上がります。ちょうど議会で予算審査がありますのでその段階で、今は簡単な図面ですが、可能な範囲以内でその辺の説明もきちんとしなければいけないと思っております。前後がどの辺になるかが分かりませんが、地域協議会の皆様へ、設計が出来た段階で改めて御説明をさせていただければと思っております。

【増田会長】

その時点で、設計変更はないということですか。

【企画政策部：川上部長】

大きなところは基本設計で出てまいりますので、その段階では骨格が出てきます。資料の9ページの下にありますように、平成26年度に基本設計を終えることとしております。その中で大きく変わることは、余程のことがない限りないと思っております。今年の9月くらいまでに実施設計を終える予定ですが、若干の変更等はあるかと思っております。

その後、今年の12月頃には建設に向けた契約に入っていく、本体工事に入っていくと考えております。基本的な設計は今年の3月中旬には出てきて、大枠は決まるというスケジュールになると思っております。

【増田会長】

委員の皆さんにお諮りしますが、時間の関係もありますが、聞きたいことがたくさんあると思います。この資料を見ていると質問がたくさん浮かんでくるのですが、それをやっているのとあと2時間くらいは掛かってしまうので皆さんから「このところは、こういう懸念がある」、「この考え方はどうなのか」というような意見を出していただいて、それを持ち帰って検討していただくというふうをお願いしたいと思うのですがよろしいでしょうか。懸念事項がたくさんあると思うのです。そのことを皆さんから出していただいて、それを別途回答していただくなり、別途の場を設けるなり、私たちは説明を受けて「こういうことを心配しているのです」ということをまずお伝えしなくてはいけない。その第1弾が、田村雅春委員がおっしゃったこと、ほぼ全部含まれているような気もするのですが、その他にも細かいところで懸念があります。私たちはこの報告を受けて「了解しました」、「増額も地域協議会として認めた」という形ではありませんので、説明を聞いたということだけなのでそのような扱いにしていきたいと思っております。よろしいでしょうか。

(はいの声あり)

では、そういう観点で御意見を申し上げます。

【町屋委員】

1つ確認させてください。今の会長と川上部長のお話の中で実施設計、基本設計の話がありましたね。今回、基本設計が出たら次はそれに基づいた実施設計になる訳ですね。ですから、今私たちがああだこうだと言える範疇というのは、実は今しかないと思うのです。今、会長がおっしゃったような「また次回に」と言って、我々が今日出した意見に答えてくれるような変更点が今後出てくるのかどうか、実際に可能なのかとこの確認していただきたいです。

【新水族博物館整備室：坂井室長】

町屋委員のおっしゃることは分かるのですが、内容にもよると思います。例えば、「この生物を入れてほしい」となると、直接、整備に係ってくると思います。それは逆に御心配されている事業費に直接響いてくる部分となります。また、運営していく観点から

どうかという部分もございますので、どこまで皆さんから意見を出していただくか、その内容にもよると思います。

施設が設置されることによる地域への影響というところで、御意見をいただければと思っております。

【増田会長】

その点は、今日、説明が不足している部分もございますので、別途、場を設けて意見交換をしたいと思うのですが、一番の地域の影響は動線ですよ。交通計画です。いかに街中にお客さんから入ってきてもらうか。あるいは、いかに渋滞を起こさせないか、そこが地域に及ぼす影響でありまして、ここに建てたからといって地域に影響を及ぼすかと言われても私たちは分かりません。経済的影響も分かる訳がないです。そういう観点では非常に地域の人たちも私たちも問題意識を持っておりますので、そこはじっくりと話をさせていただきたいと思っております。

今の町屋委員の発言は、私たちが上げた中で「そういえばその配慮が足らなかった」という部分があれば、それは当然設計上配慮していただく。上げた中でそれは配慮済みだということになれば、「それはここに書いてありますのでこう考えてください」ということになる訳ですから。そういう観点で皆さんの段階で懸念されることがあったらお出しくださいという意味です。

【田村利男委員】

この話を出しますと、必ず市では「予算がない」「出来ない」と言われます。どこかと言いますと、水族博物館の向かい側の問題があるのですよ。今まで、私はこれにこだわってきましたけど、1つも前に進んでおりません。この資料の中にもありません。これについて、今ここでどうのこうのではなくて、どういうふうになっているのか。ここで説明してほしいとは言いません。「予算がない」と言われればそれまでの話ですが。

【増田会長】

その件については、皆さん御承知かもしれませんが、市長もその件についてはコメントをされておりますので。そのような扱いになると思います。

他の皆さんはいかがですか。

【町屋委員】

私も、今日初めてこの資料を見せてもらって興奮しながら、特に3階なんて早くその場に立ってみたいなど思っているのですが、今日一番の懸念は事業費の1.5倍ですよ

ね。1. 5倍の増額に関して、ここでもそういうお話になるのだろうなど。ただ、私的にはどちらかというと、1. 5倍は、とんでもない話ですよ。車を買おうと思って、その車が納車される時にいきなり1. 5倍になるなんて話、世の中にはあり得ないです。そこに関してはきちんと償還計画を立ててくださるということなので、それは、我々も、1. 5倍というのはおかしいから建物を3分の2にしてくださいなんて話にはなりませんよね。ならない以上は、きちんとした計画の下でという説明を信じるしかないという部分があるのですが、逆にそれを言ってしまうと今の田村利男委員の話みたいに「これ以上のことをもっとうして、ああして」と言いづらくなってくるのですよ。お金がないという話になりますから。ですが、その中でいくつか確認させてください。まず、前にも協議会で話が出たと思うのですが、資料の6ページの「5配置計画の右下の『駐車場計画』」見てください。「一般車343台、大型バス20台」の駐車場からの動線というのが触れられていないのです。例えば、その左横には「アプローチ・バス寄付には庇を計画し風雨や積雪時に配慮」なんてありますが、大きいほうの駐車場に止めた人は吹きさらしでくるのか、きちんと動線を屋根付きで確保していただけるのかとか。バックエントランスはどう見ても、先ほどの平面図で見たら我々が使うところではないですよ。お客さんはみんなメインエントランスからですよ。だから、ここまで駐車場をきっちり造る以上は、特に風が強い、雪が降るというところは皆さんも分かっているのですから、そこまではきちんとしていただきたいと思います。これは前回もお話をしているはずですので、その辺に関してのお考えをお聞かせいただきたいと思います。これが1点。2点目ですが、資料の3ページから5ページのフロア図に関して言うと、大きい青い部分に「日本海側シンボル大水槽」とか「海獣プール」とか「イルカプール」と書いてありますが、それ以外の小さな青い四角が一つひとつの展示水槽であると思っいいですか。逆に言うと、これ以外の展示水槽はないということですよ。最近の風潮で見ると、昔は「汽車窓型」というのがありましたが、最近それは少ないですよ。それが少なくなってもっとダイナミックに見せるようになった代わりに、どこの水族博物館に行っても壁面積がすごいです。何にもない通路とか、壁にただ絵が書いてあるとか。昔は全部に細かい窓が配置されていたというのが今はないのです。逆にただ壁の横に絵が書いてあるところを通らされるというのが少なからずどこのところでもあるので、そうになってしまうと残念だなというのが1つです。3点目が葛西臨海公園の件ではないですけど、例えばマグロを「売り」にしている、そのマグロが死んでしまったらどうしま

しょうということを言っていますよね。例えば上越の水族博物館で言えば、ペンギンの飼育数が日本一ですと言っていて、もしそういうことがあった場合は、ケアが出来るのかなど。もっと言うと、昔、イルカを常設してほしいと言った話をした側としては、今回そうなるということだととてもうれしいのですが、イルカに関しても上越の水族博物館ではそういう経緯があるではないですか。常設ではなくなったという経緯がある以上、もしそうなった時にこれだけの施設を造って結局また夏季だけになってしまうということがないようにしていただきたい。それは皆さんではなくて運営者側の話なのでしょうけど、どういうふうにご考慮されるのでしょうか。もし駄目になった時の手当てもすぐに出来るのかという部分を込みで。これだけの施設を造る以上、それを生かすためには必要なものですから。以上3点。お聞かせください。

【増田会長】

最後の件は運営上の問題ということです。

【町屋委員】

運営上ですけど、それが為されなければこの設計自体があり得ない設計ですよ。

【増田会長】

基本設計で直接影響するかどうかは別として、それは設計者に考えてもらう問題だと思います。

今の質問でお答えいただけるのがありましたらお願いします。

【新水族博物館整備室：坂井室長】

葛西臨海公園を例に出された生物の継続的な飼育というところですが、確かに、このことは私たちも指定管理者と実際に詰めております。例えば、シロクマやラッコなどを展示する水族館もありますが、そういったものは極めて珍しい生物のため、通常入手可能なものに焦点を当てて運営をしていこうと考えております。世界情勢を含めた中で、入手については容易なものを主体にやっていければと思っております。それから、フロアの見応え感のお話ですが、確かに現在の水族博物館には小さくて複数の水槽がありません。結構古い水族博物館にはそういうパターンが多かったと思います。ただ、いろいろ調べると小さな水槽というのは、実際に見ているかといったら、ただあるというだけで、多くのお客さんは見ないで通り過ぎているということがあります。ですが、私たちが今やろうとしているのは、数というのは若干少なくなるかもしれませんが、水槽の一つひとつをしっかりと見てもらえるような形で過ごしていただき、なおかつ、ゆったりと過

ごしていただけるような空間を創設していければと考えながら設計者と指定管理者と基本設計を進めております。

【新水族博物館整備室：山岸参事】

少し補足をさせていただきますが、先ほど、委員さんがおっしゃられた動線が長くなっても壁ばかりで展示生物がないのではないのかということにつきましても、そういった何もないという部分を極力減らそうと考えております。例えば、大水槽に入っていくように感じられる、3階から2階へ降りていくところには、「上越市の淡水魚」という水槽を設けてあります。それから、大水槽の下には、所々にガラスをはめ込んで、歩きながら水槽の中が見えます。「対馬海流と生物」のところでは、上に窓を設けて水中感を感じていただくための仕掛けと言いますか、上から太陽光線が注いできて、それが水面を通ってくるので、揺らいで見えるというように水中感を楽しめるような形にしたいと考えております。委員のおっしゃられるようなことがないようにしたいと思います。あとは直江津の町を伝える展示といいですか、書き物だったり、何かの品物であったり、何にするか分かりませんが、そういったものを設けながら、何もない壁だけの場所を極力減らす工夫をしたいと考えております。

【町屋委員】

1つ目の駐車場からの動線の件に関してはいかがでしょうか。前にも言いましたので、今日この資料には載っていないということについて聞きたいです。

【増田会長】

では、駐車場からのアプローチの工夫について、現在こんなことを考えているということだけでも結構ですのでお願いします。

【新水族博物館整備室：坂井室長】

現在、上越自動車学校から直江津中等教育学校のグラウンドを通過しまして建物の中に入ってくるということですが、上越自動車学校の部分ですが、駐車場の形態は取りたいと考えております。ただ、そちらの駐車場に行くとなると相当入館者が多い時期でかなり利用頻度が限られてくるかと思えます。そういった中では、あらゆる整備を行うのは、現時点では、なかなか難しいと考えております。その前段として、まずは水族博物館周辺の道路環境を検討したいと思っております。事前調査や道路整備など、新水族博物館の一般駐車場の整備を中心に、まずはやっ払いこうという考えを持っております。

【丸山委員】

今の駐車場の話で聞きたいのですが、新しい建物を造る時に今の駐車場は止められなくなりますよね。そうすると、第2・3駐車場を利用するのでしょうか、今のお話だと上越自動車学校の場所を先に退いていただいて、そこを先に駐車場にするということですか。つまり、建物を一旦壊すわけですよね。次に建てる間に1年や2年のタイムラグがありますよね。この時の駐車場というのはどうするのですか。

【新水族博物館整備室：坂井室長】

今、丸山委員がおっしゃったように、今の駐車場に新水族博物館を建てるということなのでそこに車は止められなくなります。ですので、先に今の上越自動車学校側を駐車場にします。当然、今の水族博物館は運営していますので、新しい水族博物館が出来た後にそこを駐車場にしていくという流れになります。ただ、その場合、歩いていただくこととなり、どうしてもそこは我慢していただかなければなりません。現在はそういう流れになっておりますので、御理解をいただきたいと考えております。

【田村利男委員】

昨年の10月だったかと思いますが、北部まちづくりセンターを通じて、今の水族博物館の外壁にある高井進さんのレリーフを残していただけないかということをお願いしました。いくらかでもいいのです。確か、5,353枚だったかと思いますが、長野県から来た方も随分寄付されているはずなのです。ですから、100%とは言いませんが、今、設計の段階だと言われているから、少しでも残していただけないかと、私の希望としてお願いします。

【増田会長】

基本設計に盛り込んでいなければ、盛り込んでほしいという要望です。

【竹内副会長】

説明をワクワクしながら聞いていたのですが、新水族博物館をとっても楽しみにしているのです。

私は、障害のある方に対する福祉ボランティアをしまして、どうしても障害のある方を連れていく機会が多いのですが、説明の中に障害のある方に対する工夫等の説明が一切なかったのですが、どうなっていますか。基本設計の中に障害者にやさしいというのは含まれているのでしょうか。

【新水族博物館整備室：山岸参事】

障害のある方の対応につきましては、市の「ユニバーサル指針」がございますので、

その指針に基づいて対応していきます。例えば、駐車場であれば、ゆとり駐車場と申しますか、ドアを開けてもゆとりがあるという形で、一般の方のラインより余裕を取るような形で気軽に駐車できるようにすることや、建物の中につきましてもエレベーター、それから、大水槽に入るところは緩やかなスロープを設ける予定で、障害のある方にも安心して利用いただけるような配慮を考えております。

【竹内副会長】

申し訳ないのですが、今の水族博物館で、障害がある方を抱えてエレベーターに乗ろうとしたのですが、エレベーターの速度が速すぎて乗ることが出来なかったのです。10年くらい前にお願いしたことがあるのですが、もう少しゆとりのある配慮をしていただきたいと思っています。せっかく、ゆとりのある駐車場のスペースを造っていただくのなら、中もゆとりがあって障害者にも優しい形にしていきたいと思いたしたので、その説明があれば欲しかったのです。

【新水族博物館整備室：山岸参事】

今、おっしゃられたのはエレベーターとエスカレーターの違いだと思うのですが、動いている階段は、エスカレーターです。今の増築棟の大ホールの脇にあるものをおっしゃられたのだと思いますが、私も何回かお邪魔している中で、あのエスカレーターがあまり利用されていないということもお聞きしております。新水族博物館では、例えば、幅を大きくしてしまうと、大人と子どもが並べて良いという反面、後ろから来た人に追いつかれて困る、子どもだけで乗っていると危険である、という意見もありまして、いろいろ検討する中で、現在は1人立ち用のもので検討しております。これは、太平洋側にある大きな水族博物館のほとんどにエスカレーターがありますので、そういった施設にもお聞きをして「利用上、何か問題があるのか、ないのか」等を確認しております。それと、エスカレーターのスピードのお話については、そこまで私どもも考えておりませんでした。その辺については機種を選定する時に対応することは可能と考えております。エレベーターについては今の物より一回り大きなもので3階まで上っていただきたいと考えております。いずれにしても、それについては研究をしてメーカーと相談する中で機種選定を行っていきたいと思います。

それと、陶板の話ですが、昨年の10月にお話をいただきまして、その後、現在の水族博物館の中村館長が中心になって高井先生とお話をしました。我々も出来るだけ生かしたいということで、実際、綺麗に剥がれるのかを、先生自ら専門の職人さんを一緒に

連れて何枚か剥がしていただきました。結果として陶板は粉々になってしまいました。というのは、付ける時に陶板が落ちて来館者に怪我をさせてはいけないとか、車の上に落ちて車が破損したら困るということで、かなり気を使ってしっかりと留めたり、強度のある接着剤で付けていたりということがありました。先生の見解としては、陶板を生かしたまま外すことは出来ないということで、先生からは正式にお話はいただきました。ただ、委員さんがおっしゃられたように、そういった思い出があるので何か出来ないかと中村館長を含めて話をしております。もう少し大きく取れば使い道もあるのかなと思ったのですが、あまりにも粉々に砕けすぎて、良い使い道が見当たらないというのも正直なところです。

【伊藤委員】

今まで、皆さんのお話を聞いている中で、私も重複するところがあるかもしれませんが、今日、説明いただいた中身については、専門の方々が知恵を絞って基本設計のスタイルにしていると思います。私はそれよりも、増田会長もおっしゃっていましたが、とにかくアクセス関係が一番重要とされている大事なところだと思います。川上部長もおっしゃられていましたが、来られる方が日本海の夕日や、朝日などの景観を望まれているというのが事実でございます。とにかく交通アクセスを考えていただきたいと思います。水族博物館に来られた方たちに建物の中身に関しては「なるほど。世界一、日本一」と思ってもらえるような素晴らしいものを造っていただければと思うのですが、その付近が「直江津は何だ」と思われるようなことのないようなものにしていただくには、環境整備が大事だということを五智地区としても強くお願いしてきました。今、駐車場から建屋の関係もありましたが、車椅子だろうと、ベビーカーであろうと通れるような上家をお願いしてきたところですので、ぜひ、予算の「無い、有る」のこの中にそれを含めていただきたいと要望して終わります。よろしくお願いします。

【小林委員】

資料の8ページで「3財源内訳」で『当初、市負担額2,815百万円』。下の『現在、市負担額4,357百万円』。次に9ページの『起債償還額』で「市の実質的負担額は約34億円となる」となっているのですが、8ページでは4,357百万円で、9ページでは34億円と言っている。ここの乖離は何なのとか、では、当初の市の負担額の28億1,500万円は実質どうだったのか。今聞かないでもいいのですが、もう少し説明をしないと、市民の皆さんはどういう絡繰りになっているのか分からないと思います。

安かろう悪かろうというのは絶対反対ですから。その辺の数字をきちんと整合性が合うように説明していただきたいのが1つ。それと、先ほども丸山委員から出ましたが、6ページの今の上越自動車学校から来る動線です。当然、建設している間、現水族博物館は営業する訳ですから、東側の一般車の110台、60台だけでは間に合わないのが分かりますので、そうすると、直江津中等教育学校のグラウンドの南側を通過して、計画している建物の西側を出て、歩道へ来るといふ動線になりますよね。グラウンドの北側なんて歩道はありませんから、危なくて歩かれないです。その辺の動線は大事だと思います。それともう1点。今ある水族博物館にいる生物をどれほど新しい水族博物館で利用しますか。例えば、大きな亀が狭いところに追い込まれているでしょ。かわいそうです。あれはもう少し悠々と泳がせてやりたいのだけれども、それも含めて、今の水族博物館には、マニアの方にとっては結構おもしろいという生物もいると聞くのですが、その辺がどうなっているのか。あともう1点。6ページの下に「バスの寄付」と書いてあるのですが、そうすると一般用の駐車場の中に大型バスも入ってくるのですよね。その4点を教えてください。

【新水族博物館整備室：山岸参事】

バスの寄付は、道路から入ってお客さんを下ろしたら出ていくということも可能ですし、直江津中等教育学校の方から入って出るというスペースも確保してあります。

【増田会長】

今いる生物の移転の関係で、分かっている範囲で簡単に御説明をお願いします。分からなければ後でも結構です。

【新水族博物館整備室：坂井室長】

今の水生生物ですが、まず、なるべく残したいというのもあります。確かに、亀というのは私たちの中でも話題になっております。ですが、そこをどうやってやるか、技術的なところを今確認しております。というのは、亀自体がアクリルとか接着しているものを噛んでしまったり、いろいろなことをしたりするそうです。亀の飼育は後々のことを考えてやらないと難しいところもあるのですが、ただ、実際に他の館でやっているところもありますので、そういったものも含めて、なるべく残していけるよう検討しているところです。ただ、最終的には、この館のコンセプトに全く合わないものというのは、他の館とのやり取りの中で生かしていくというのは手法として考えております。また、横浜八景島でも、仙台の水族博物館でもやられていますし、他の館でもやられています。

その中でやり取りするのは、手法として出来る事業者ですので、そういったところも考えてみたいと思います。

【町屋委員】

小林委員は「亀」と言ったのですが、どれだけの人がそう思っているか分かりませんが、直江津の人って水族博物館の亀にはすごい思い入れがあるのですよ。なので、小林委員も狭いところに亀が追いやられていると言ったのだと思います。私の中で水族博物館に入ったら亀だと思える世代が少なからずいるので、それは指定管理者になっても出来る事なら地元としての要望の中に亀は残していただきたい。

【田村雅春委員】

先ほど、小林委員がいみじくも言ってくれましたが、事業費がこれだけ上がったのだから行政側の財政計画が今後いろいろと変わる点が出るかと思えます。それと、もう一つ。先ほど、川上部長から「丁寧な説明をしていかなければいけない」というお言葉をいただいたのですが、それをどうやって伝えるのか、やはり行政側がしっかりしてもらわなければならないと思うし、私たち以外の地域協議会委員にもある程度、情報というのが伝わるようにしてほしい。だからといって、インターネットがあるから市のホームページを見ればいいのかと、必ず言ってくる人がいる。ところが、インターネットをやっていない方というのは、上越市民の中でどれだけいるのか、それ自体が全く分からないから、やっぱり丁寧な説明が今後、求められるのではないかと、私は思います。賛成か反対かというのは、その時の状況によってあろうかと思えますが、その辺を是非よろしくお願いします。

【増田会長】

今の件について、何かありましたら御説明ください。

【新水族博物館整備室：坂井室長】

例えば、これまで文化会館で報告会等をさせてもらっております。今回であれば、当然、市もそうですが、設計者、指定管理者からも、どうしてこういうものにしたのか、市としては今の財政面も含めて市民の皆様幅広く御説明する機会を設けなければいけないと考えております。委員の皆さんへも御案内いたしまして、御参加いただければと考えております。

【増田会長】

ありがとうございます。他はいかがですか。

【福島委員】

パブリックコメント等でいろいろと意見があったかと思うのですが、レストランです。日本海を見ながら食事をしたいというようなことについて、その辺はどうになりましたか。

【新水族博物館整備室：山岸参事】

「海を見ながらレストランで食事」という意見が出ているということも承知しております。ですが、設計する時のコンセプトとして、日本海を借景とするという大きなテーマもございました。そういうところでどちらを生かすかというところで、日本海を借景とした展示はどこにもないということで、そちらを優先させていただきました。また、水族博物館は入館料をいただきますので、有料ゾーン・無料ゾーンがあり、レストランについては無料ゾーンに設けたいということも理由の1つです。レストランについては、2階や3階に設けるということも出来るのですが、1階の海側にレストランを造った時に、直接海が見えるのではなくて、先ほどからお話がある家屋が見えるだけで海を感じることが出来ないということもありまして、全体の配置を考えてレストランとして一番目立つところ、玄関脇に設けて、無料でも入れるような形にしたということです。それから、レストランというのは、どうしても資材の運搬ですとか、ごみが出るとか、そういったことも考えますと、一般のお客様とぶつからないような動線計画にしたいと考えております。その代わり、せっかく水族博物館に来たのだから何か特徴を出したいということで、レストランに水槽を設けるなどして水族博物館の中で食事をしているということが伝わるように配慮をさせていただきたいと考えております。

【増田会長】

他の皆さんどうぞ。

(意見なし)

概ねよろしいでしょうか。言い忘れたのがあれば、また後で意見を出すようにいたします。

【泉委員】

お願いというか提案なのですが、先ほど、田村雅春委員から「丁寧な説明」という話がありました。一方で私たちも新しい水族博物館に関しては、どんなものがどんなふうな形で出てくるのか大きな期待もあります。今、説明をいただいた出来上がりの部分ですが、今の説明ではほとんど伝わってきません。出来れば、どのくらいのお金が掛かるのかは分かりませんが、今のCGは相当進んでいますので、それを使ってやってもらえ

れば良いと思います。他県に対してコマーシャルをする時にも使えるはずなのですよ。今は簡単に出来ます。お金がどれくらい掛かるか分かりませんが、費用対効果というものを考えれば、コマーシャルというのは随分と重要な問題ですよ。お願いしたいと思います。

【増田会長】

他にいかがですか。

(意見なし)

では、一応、一区切りしたいと思います。若干追加で、分かっている限りでは、トイレの場所とか休憩コーナーがよく分からないということ。それと、情報発信の情報コーナーがどこにも見当たらない。それから、3階の日本海夕日ゾーン、これは何をするといいところなのかよく分からないのですが、先ほど、レストランの話の中で「日本海の借景を優先しました」と言っていました。日本海夕日ゾーンでお客さんを呼べるのか、それとも福島委員がおっしゃったように、海を見ながら海鮮料理がおいしいおしゃれなレストランのほうがお客さんを呼べるのではないかと、その辺をしっかりと把握していただきたいと思います。それからミュージアムショップはお金を払わないと行けないというのが少し考え直す必要があるのではないかとされます。そんなところを追加して検討していただければと思います。

設計者からの説明をする時に、必ず設計の意図の説明があると思いますが、そこら辺はしっかり伝えていただけるように準備をお願いしたいと思います。

いずれにしても、「丁寧に」という中では、大方の皆さんの理解を得ながらということだと思いますので、拙速に進めて後に悔いを残さないようにというのが皆さんのお考えですし、私たちもそうです。市民の皆さんも非常に強い思い入れがあると思いますので、それぞれ、意見を聞きながら進めていただければと思います。よろしくお願ひします。

それでは、本件についてはこれで終わりにしたいと思います。長い間ありがとうございました。

— 企画政策部長、新水族博物館整備室 退室 —

時間が押してしまいましたが、水族博物館問題は非常に大切な問題ですので、御理解をお願いします。

では、次に地域活動支援事業について、事務局から説明をお願いします。

【荒木係長】

それでは、「平成27年度地域活動支援事業について」説明させていただきまして、採択方針として決定していただきたいと思います。

－ 資料No.1 「平成27年度地域活動支援事業案の概要」

資料No.2 「平成27年度 地域活動支援事業 直江津区の採択方針等について」
に基づき説明 ー

【増田会長】

ありがとうございました。今の説明は資料No.2の「周知方法」の『直江津区での取組』に細かく書かれておりますので、これで確認していただければと思います。それから、提案書の締め切りです。去年は、連休明けに締め切りにしたと思うのですが、事務局の説明で4月30日、木曜日にしたらどうかという提案がありましたが、皆さんで意見はありますか。

(意見なし)

では、締め切りは4月30日、木曜日にしたいと思います。

その他については前回までに説明が終わっておりますので、そのとおりに進めていくということにしたいと思います。

では、これで、地域活動支援事業の採択方針は終わりにしたいと思います。よろしいでしょうか。

(はいの声あり)

では、その他について事務局からお願いします。

【荒木係長】

次回の協議会についてです。諮問等の案件は特に入っておりません。これから、案件等が入らなければ、次回は自主的審議事項の継続審議が中心になると思います。参考としまして、今後のスケジュールは、地域活動支援事業については4月以降に募集が始まった時点で1度開催して、採択審議、スケジュール等を御協議いただきたいと思いますと考えております。また、時期は未定ですが、行政改革推進課から「公の施設の再配置計画」や「減免基準の見直しについて」、3月後半か4月初め辺りに報告があるかと思われます。また、情報が入りましたら皆様方にお伝えしたいと思います。この後、次回の協議会について御協議いただきたいと思いますと思うのですが、案としましては、定例の第3水曜日、3月18日でと考えております。

【増田会長】

今説明がありましたように、定例日、3月18日、水曜日という話がありましたが、この日でよろしいですか。

(意見なし)

では、3月18日、水曜日、午後5時からでお願いします。

【田村雅春委員】

今回、2月15日号の「地域協議会だより」というのが出ましたよね。それに市民いこいの家のことが書いてあったのですが、あの編集は誰がやっているのですか。

【増田会長】

私です。

【田村雅春委員】

何故かと言うと、結構議論があったような気がしたのですが、市民いこいの家のことが1行くらいしか書いておらず、いこいの家の利用者に責められてしまいました。

【増田会長】

ここで出た意見は極力載せるようにしているのですが、漏れる場合もあります。申し訳ありません。いろいろ改善していきたいと思います。

それから、次回の内容ですが、先ほど、行政改革推進課から報告がありそうだという話もありますが、自主的審議事項では「直江津まちづくり構想」の話がずっと出ています。私から皆さんにお諮りしたいのですが、まちづくり構想というのは幅が広いのですが、水族博物館が目の前に来ておりますので、特に「水族博物館を意識したまちづくり構想」という方向に絞って進めていきたいと思っております。特段、異論がなければそのように進めていきたいと思います。この中にはどういうことがあるかと言うと、先ほど、話があったように車をどうやって動かすとか、渋滞は大丈夫かなどがこの中に入りますので、その辺を重点的に取り組んでいきたいと思いますのでよろしくをお願いします。

今回の水族博物館で言い忘れたこと等があると思いますので、それを来週の水曜日くらいまでに書いて事務局へ出してください。様式は適宜で結構です。やはり聞くことはきちんと聞かなければいけないと思いますので、あえて皆さんにお願いします。

では、その他、何かありましたらどうぞ。

【伊藤委員】

先日の「えちご・くびき野100kmマラソン」の「直江津おもてなしプロジェクト」に皆さんから御協力いただきましてありがとうございました。1月19日から29日までイトーヨーカドーで写真展を開催しました。たくさんの方々から来ていただきありがとうございました。それから、地域活動支援事業の補助金もいただき盛大に実施することが出来ました。皆様からご協力いただいたことをこの場を借りてお礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

【増田会長】

では、終わりにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【荒木係長】

1点だけ連絡事項ですが、地域協議会の検証結果報告会の件についてです。皆様には報告書の送付と御案内をさせていただいておりますが、3月10日、火曜日の15時からリージョンプラザ上越のコンサートホールで開催されますので、ぜひ、御参加いただきたいと思います。会場準備の関係で出欠の連絡をいただきたいと思いますので、この会が終わってからも結構ですが、3月2日までに、電話、FAX、メールいずれかで御連絡いただきたいと思います。以上です。

【増田会長】

では、以上を持ちまして終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。